

授業科目(ナンバリング)	日本語教授法 A (CB301)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育とは「日本語を母語としない人」に体系的に日本語を教えるということをいう。恣意的、断片的に日本語を教える場合には日本語教育とは言えない。したがって、いかに体系的に教えていくのかを学ぶのが本講義の目的となる。履修学生は、日本語によるコミュニケーション活動に必要な能力（「受容」「産出」「やりとり」「テキスト」「方略」：国際交流基金 URL「JF スタンダード」2019 年 2 月 26 閲覧）を、学習者の目的に合わせ、向上させるスキルを学んでいく。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語学習者のレベルに合わせて授業の教案と教材を作成することができる。 教案に基づき、ウォームアップ、導入、練習、活動、まとめの流れで（大森他 2012: 8）授業が展開できる。 模擬授業での自己のパフォーマンスを省察的に振り返ることができる。 初級授業の体系や学習者の日本語力を向上させる方を説明できる。				教案・教材作成 模擬授業 レポート 定期試験	20% 10% 20% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	模擬授業の担当者のパフォーマンスに対して建設的なフィードバックを与えることができる。 模擬授業の担当者と、その他の学生が、思いやりの気持ちを持って意見を交換し、学び合うことができる。				フィードバックシート ディスカッション	20% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
教案および教材作成を 20%、模擬授業を 10%、レポートを 20%、定期試験を 20%、模擬授業担当者に対するフィードバックを 20%、ディスカッションを 10%で、評価する。レポートのフィードバックは、授業で行う。							
授業の概要							
『みんなの日本語』という高いシェアを占める初級日本語教科書を用いて、グループで模擬授業を行い、初級者の授業のあり様を体験してもらう。教員は初級授業の展開の仕方について指導したり、模擬授業の準備や模擬授業での学生のパフォーマンスに対して助言を与えたりする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク 市川保子（2005）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク 参考書：『みんなの日本語初級 I 第 2 版 教え方の手引き』（2016）スリーエーネットワーク 大森雅美他『日本語教師の 7 つ道具シリーズ 1 授業の作り方 Q&A78 編』（2012）アルク 高橋美和子他『クラス活動集 101-『新日本語の基礎 1』準拠』（1994）スリーエーネットワーク 足立章子他『絵で導入・絵で練習』（2004）凡人社 指定図書：荒川洋平（2013）『日本語という外国語』講談社現代新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
模擬授業担当者は、時間に余裕をもって、教案や教材の準備を行うこと。 担当者以外の者は、次回の授業範囲を予習し、導入項目をよく理解したうえで授業に参加すること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション、導入	本講義の進め方と使用する教科書について解説する。 また、外国語学習の疑似体験をする。	予習) シラバスを読み、教科書の学習項目を確認する
2	初級授業の流れ	授業の流れ(ウォームアップ、導入、練習、活動)を知る。(『みんなの日本語』第2課) 模擬授業のグループ分けと担当日を決める。	予習) 『みんなの日本語 I』 p. 14-p. 21 第2課 復習) 模擬授業で担当する課の内容を確認する。
3	教案と教材	・教案作成の重要性を認識し、書き方を学ぶ。 ・日本語の授業で用いられている教材について知り、作成法や注意点を学ぶ。	予習) 模擬授業で行う活動について考える。 復習) 模擬授業で使用する教材を作成する。
4	模擬授業の準備	模擬授業の準備	予習) 模擬授業の進め方を考える。 復習) 模擬授業の準備をする。
5	初級前期の指導法①	グループ模擬授業1、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第5課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 26 「4: 格助詞」
6	初級前期の指導法②	グループ模擬授業2、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第6課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 100-p. 104 「17: ~ましょう~ませんか」
7	初級前期の指導法③	グループ模擬授業3、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第7課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 279-p. 285 「45: もののやりもらい(授受)」
8	初級前期の指導法④	グループ模擬授業4、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第8課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 40-p. 48 い形容詞・な形容詞、p. 366-p. 372 「58: ~が・~けれども」
9	初級前期の指導法⑤	グループ模擬授業5、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第9課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 347-p. 353 「55: ~から」
10	初級前期の指導法⑥	グループ模擬授業6、省察およびディスカッション(『みんなの日本語 I』第10課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 34-p. 39 「5: 存在文」
11	初級前期の指導法⑦	グループ模擬授業7、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第11課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『みんなの日本語 I』 p. 90-p. 97 第11課
12	初級前期の指導法⑧	グループ模擬授業8、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第12課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 62-p. 66 「10: 比較」
13	初級前期の指導法⑨	グループ模擬授業9、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第13課)	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 85-p. 89 「14: ~たい」
14	初級前期の指導法⑩	グループ模擬授業10、省察およびディスカッション(『みんなの日本語 I』第14課(1))	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 56-p. 61 「9: て形」
15	初級前期の指導法⑪	・グループ模擬授業11、担当者の省察、全体でのディスカッション(『みんなの日本語 I』第14課(2)) ・前期の授業を振り返り、後期の担当日を決める。	担当者: 授業準備 他の学生: 『初級日本語文法と教え方のポイント』 p. 95-p. 99 「16: ~てください」
16	定期試験		